

米軍基地関係特別委員会記録  
<第2号>

平成29年第1回沖縄県議会（2月定例会）

平成29年3月14日（火曜日）

沖 縄 県 議 会

## 米軍基地関係特別委員会記録<第2号>

---

### 開会の日時

年月日 平成29年3月14日 火曜日  
開 会 午前10時1分  
散 会 午前11時16分

---

### 場 所

第4委員会室

---

### 議 題

- 1 軍使用土地、基地公害、演習等米軍基地関係諸問題の調査及び対策の樹立  
(米海兵隊のつり下げ訓練によるUH1ヘリコプターからのタイヤ落下事故  
について)
- 2 軍使用土地、基地公害、演習等米軍基地関係諸問題の調査及び対策の樹立  
(米海兵隊のつり下げ訓練によるUH1ヘリコプターからのタイヤ落下事故  
に関する意見書及び同抗議決議について (追加議題))

---

### 出 席 委 員

委 員 長	仲宗根	悟 君
副 委 員 長	親 川	敬 君
委 員	花 城 大	輔 君
委 員	末 松 文	信 君
委 員	宮 城 一	郎 君
委 員	崎 山 嗣	幸 君
委 員	新 垣 清	涼 君
委 員	渡久地	修 君

委員 嘉陽宗儀君  
委員 當間盛夫君

委員外議員 なし

---

### 欠席委員

山川典二君  
照屋守之君  
金城勉君

---

### 説明のため出席した者の職・氏名

知事公室基地防災統括監 池田竹州君  
基地対策課副参事 伊田幸司君

---

○仲宗根悟委員長 ただいまから、米軍基地関係特別委員会を開会いたします。

本委員会付議事件軍使用土地、基地公害、演習等米軍基地関係諸問題の調査及び対策の樹立に係る米海兵隊のつり下げ訓練によるUH1ヘリコプターからのタイヤ落下事故についてを議題といたします。

本日の説明員として、知事公室基地防災統括監の出席を求めています。

米海兵隊のつり下げ訓練によるUH1ヘリコプターからのタイヤ落下事故について審査を行います。

ただいまの議題について、知事公室基地防災統括監の説明を求めます。

池田竹州知事公室基地防災統括監。

○池田竹州基地防災統括監 ただいま議題となっております米海兵隊のつり下げ訓練によるUH1ヘリコプターからのタイヤ落下事故について、県の対応を御説明いたします。

3月8日、キャンプ・ハンセンにおいて、UH1Yにつり下げられたタイヤが落下する事故が発生しました。

今回の事故は、人的、物的な被害は確認されていないものの、県民に大きな不安を与え、一歩間違えば県民の生命・財産にかかわる重大な事故につながりかねず、あってはならないものと考えております。

つり下げ訓練が行われたヘリ着陸帯LZファルコンについては、昨年12月にオスプレイが物をつり下げた状態で住宅地上空を飛行したことから、県は、米軍及び政府に対して抗議するとともに、周辺住民に十分に配慮することを強く求めました。

また、先月、つり下げ訓練を再開する旨の連絡があった際にも県は、LZファルコンでつり下げ訓練を行うべきではないと申し入れたところです。

このような状況にもかかわらず、訓練が再開された直後にこのような事故が発生したことは、まことに遺憾であります。

宜野座村城原区においては、夜間の騒音が増加傾向にあることに加え、つり下げ訓練により、住民の不安と不満は一層高まっており、もはや容認できない状態に近づきつつあります。

県は、住民に不安を与えるLZファルコンでのつり下げ訓練を行うべきではないと考えており、翌9日、沖縄防衛局に対して、県民に十分に配慮した対応をとること及びこのような事故を再び発生させないよう、事故原因を究明し、公表するとともに、航空機の安全管理の徹底について万全を期すことを米軍に対して働きかけるよう強く要請したところです。

また、10日には、在沖海兵隊に対して同様の要請を行ったところです。

以上で説明を終わります。

御審査のほど、よろしく申し上げます。

**○仲宗根悟委員長** 知事公室基地防災統括監の説明は終わりました。

これより、米海兵隊のつり下げ訓練によるUH1ヘリコプターからのタイヤ落下事故について質疑を行います。

なお、質疑・答弁に当たっては、挙手により委員長の許可を得てから行い、重複することがないように簡潔にお願いいたします。

質疑はありませんか。

末松文信委員。

**○末松文信委員** LZファルコンは、集落とはどのような位置関係にありますか。

**○池田竹州基地防災統括監** 宜野座村城原区の集落の中心域までは数百メートル

ルはあるのですが、最も近い民家までは直線距離で約350メートルと聞いております。

○末松文信委員 集落の中心までは幾らですか。

○池田竹州基地防災統括監 1キロメートル程度はあると聞いております。

○末松文信委員 今回、タイヤが落下した地点はどの地点ですか。

○池田竹州基地防災統括監 米軍からの情報によりますと、提供施設内に落下したということでございます。詳細な場所については、沖縄防衛局を通して照会している最中でございます。

○末松文信委員 報道や説明を伺うと、着陸帯での事故だと見えるのですが、そのとおりですか。

○池田竹州基地防災統括監 そこも含めまして、実際にどのような訓練をどこで行っていたのか、あるいはタイヤをどの程度つり下げていたのか等もあわせて照会しているところです。

○末松文信委員 こういった事故はこれまでにどれぐらいの頻度で起きているのですか。

○池田竹州基地防災統括監 県が把握しております今回のような落下事故は、復帰後、今回を含めて4件発生しております。

○末松文信委員 これまでの4回の事故はどのようなものですか。

○池田竹州基地防災統括監 今回を除く3件の過去の事例を御紹介いたします。まず、平成3年11月、普天間飛行場所属のCH53ヘリが1300ポンドの燃料補給用物資1箱を誤って読谷村都屋の沖合に落下させた事故がございます。平成5年9月、同じく普天間飛行場所属のCH53がキャンプ・ハンセンにおいてクレーン車7.5トンをぶら下げる移動訓練を行っていた際、地上60メートルからクレーン車を落下させたと。被害はなかったと聞いております。平成18年12月、読谷村トリイ通信施設近くの海上において、同じくCH53ヘリが渡名喜村

出砂島に廃車を運ぶ途中、つり下げていた廃車を海に落下させた事故がございます。今回の件を合わせて4件と把握しております。

○仲宗根悟委員長 ほかに質疑はありませんか。  
親川敬委員。

○親川敬委員 沖縄防衛局に問い合わせをする際、なぜタイヤだったのかということも確認していますか。

○伊田幸司基地対策課副参事 なぜタイヤかということですが、沖縄防衛局から我々が説明を受けているのは、今回の訓練は、パイロットが消火活動任務を実施するために消火用バケツをつり下げる際の練度維持に役立つものと聞いておりました、そのためにタイヤをつり下げていたと推定されます。

○親川敬委員 何個かという確認はとれていますか。

○伊田幸司基地対策課副参事 現在、沖縄防衛局に対して照会中でございます。

○仲宗根悟委員長 ほかに質疑はありませんか。  
新垣清涼委員。

○新垣清涼委員 位置関係について、3月10日の琉球新報1面掲載の記事を見ると、米軍が搜索したと見られる場所と着陸帯の間には空き家や民家があるので、提供施設の中だけでは訓練していないわけです。LZファルコンを飛び立って、民間地上空を飛び回っています。こういうことは確認されていますか。

○池田竹州基地防災統括監 具体的な訓練の際の飛行ルートについても照会中で、まだ回答が来ていないところですが、12月に住宅地上空の飛行があったときにも、つり下げ訓練は、住宅側で一切飛ばずに山側を飛行するよう申し入れているところです。LZファルコンについては、つり下げ訓練を行わないように申し入れているところがございます。

○新垣清涼委員 米軍は日米で合意したルートに沿い、訓練場内の非住居地区だけで実施しているとコメントしているのですが、新聞報道からすると、どう

もそのようには受け取れないのです。着陸帯ファルコンと落下したとみられる場所の間には民家、あるいは空き家があるわけですから、明らかに民間地上空で訓練していると。消火訓練と言ってあたかも住民のためにいいことをしているような表現なのですが、民間地上空を飛ぶということは許されないことなので、あなた方が言っていることは違うでしょうということを強く訴えて改善してほしいと思うのですが、その辺はどうでしょうか。

○池田竹州基地防災統括監 住宅地上空をつり下げ訓練等で飛行することがあって、落下すれば、当然、重大事故に直結するものなので、住宅地上空を飛ぶことは決してあってはならないと考えております。県としても沖縄防衛局を通して実際にどのような飛行ルートを通して訓練していたのかきちんと確認できるように努めて、必要に応じて申し入れをしてまいりたいと考えております。

○新垣清涼委員 沖縄防衛局だけに要請しているのですか。直接、米軍に対しては要請していないのですか。

○池田竹州基地防災統括監 沖縄防衛局と米軍に事故を受けての要請は行っておりますが、事故原因などについては沖縄防衛局を通してという形でこれまでもやってきているところです。

○新垣清涼委員 原因究明どうのこうのというのは沖縄防衛局を通してしかできないかもしれませんが、実際に落下事故を起こしたのは米軍ですから、米軍に対して県民に不安を与えるような訓練はやめてほしいということを強く言わないと、彼らは人道支援、あるいは災害救援任務を果たすために不可欠だと言っているわけです。人命救助のために不可欠だと言っていますが、県民に不安を与えるような訓練はけしからんと、直接、米軍に対して訴えていただきたいのですが、どうでしょうか。

○池田竹州基地防災統括監 沖縄防衛局に要請したのは3月9日の夜だったのですが、9日は米側が対応できないということで、10日に米海兵隊の政務外交部長—G7の部長宛てに、特にLZファルコンでのつり下げ訓練は行うべきではない。そして、住宅地上空を飛行するべきではないということは強く要請しているところです。

○新垣清涼委員 着陸帯ファルコン自体が民間地域の近くにあることが大きな

問題だと思いますが、県民に不安を与えるような訓練は最低限やめるべきだということ、これからも強く訴えていただきたいと思います。

○仲宗根悟委員長 ほかに質疑はありませんか。  
渡久地修委員。

○渡久地修委員 これはとても重大な事故だと思いますが、先ほど、復帰後4件の落下事故があったということで、復帰前を含めると何件ありますか。

○伊田幸司基地対策課副参事 復帰前のデータは持っていません。

○渡久地修委員 持っていないというのは、今、持っていないのですか。それとも、県は知らないという意味ですか。

○伊田幸司基地対策課副参事 県ではそのような資料を持っておりません。

○渡久地修委員 ぜひ調べる必要があります。読谷村でトレーラーが落下して少女が圧死した事故があったと思いますが、それがわかれば教えてください。

○池田竹州基地防災統括監 今、おっしゃった事故が起きていることは把握しておりますが、警察などを含めた統計データのものが復帰前はきちんと整備されていないということで、復帰前に何件という客観的な数字をお答えすることは非常に難しいと思います。個別の大きな事故については、「沖縄の米軍基地」にも幾つか載せているところです。

○渡久地修委員 復帰前のものを正確に把握できていないならできていないで、今、県が把握しているものはこれだけですかということではいけないのですか。県が把握しているのは何件ですか。

○伊田幸司基地対策課副参事 統計的なものは県にはございません。

○渡久地修委員 県が最低限、把握しているものがあるでしょう。1件も把握していないのですか。そんなことはあり得ないでしょう。

○池田竹州基地防災統括監 幾つかの大きな事故として、宮森小学校の事故な



どは、当然、把握していますが、復帰前に何件と言ってしまうとその数字がひとり歩きしてしまう懸念もあると思っております、個別の事故を説明することはできるのですが、復帰前の件数についてはもう少し慎重にしたいと思っております。

○渡久地修委員 大きな落下事故について、わかる分だけ報告してください。

○池田竹州基地防災統括監 きょうはこの事故の関係ということで、その資料は持ってきておりません。確認できる範囲はなるべく速やかに確認したいと思っております。

○渡久地修委員 今回の落下事故で沖縄県民がすぐに思い起こすのが、復帰前の棚原隆子ちゃんの圧死事故なのです。トレーラーが落下して殺されたという事故がありましたよね。

○池田竹州基地防災統括監 その事故は私どもも確認しております。

○渡久地修委員 絶対このようなことを繰り返してはいけません。今回、タイヤが一タイヤと言いますが、誰がタイヤと確認したのですか。タイヤ以外にはありませんか。

○伊田幸司基地対策課副参事 私どもが沖縄防衛局に確認しておりますのが、落下したのはタイヤであるということでございます。

○渡久地修委員 それでは、落下物であるタイヤが、住宅あるいは歩行していた人の上に落ちたらどうなりますか。

○伊田幸司基地対策課副参事 沖縄防衛局からの情報によりますと、今回、7トントラックのタイヤ1つが発見されているということでございます。7トントラックのタイヤの重量は把握できていないのですが、かなり重いということが想定されます。

○渡久地修委員 物すごい物が上空から一高さによっても違うと思うのですが、車も潰れるでしょうし、もし人に当たったら棚原隆子ちゃんの事故を繰り返してしまうことになるという大変危険なものなのです。これは消火訓練など

と米軍は言っているということですが、米軍はトレーラーやジープをつり下げたり、私も見たことがあります、105ミリ砲もつり下げてどンドン訓練を行っているのです。ですから、これは一概に消火活動のための訓練とは言えないのではないですか。

**○池田竹州基地防災統括監** 今回、事前に連絡があった中ではそのような訓練ということですが、それが全てかどうかともあわせて沖縄防衛局に確認しているところでございます。

**○渡久地修委員** 私は宜野座村城原区に行きました。当時の宜野座村が撮った動画も、そこに住んでいる人が撮った動画も見ました。本当に泉さんの家の上空を飛ぶのです。泉さんの家には近づかないよということ、沖縄防衛局が標識灯をつけたらしいのですが、夜間はそれを目指して飛んでくるということで、本当に大変なのです。ですから、LZファルコンのふちと泉さんの家は約350メートルではなく、もっと近いのではないですか。

**○池田竹州基地防災統括監** 先ほど、LZファルコンからは約350メートルとお答えしたのですが、施設区域の境界はそれよりももう少し泉さんのお宅に近いです。今、何メートルかというデータが手元にないのですが、区域境界はそれよりかなり近いところにあったかと思います。

**○渡久地修委員** 早急に調べてもらえませんか。約350メートルと言え、かなり離れているようですが、ここにおりていくので家の真上を通るのです。本当にひどい訓練をしています。ですから、そういうものは撤去するしかないと思います。それから、皆さんは住宅上空を飛ばないように言っているということですが、住宅上空と民間地上空はどう違いますか。民間の畑や道路であれば飛んでもいいのですか。

**○伊田幸司基地対策課副参事** 訓練自体は当然、提供施設区域内でやるべきだと考えております。ただ、今回は、通過などについては住宅の上を飛ばさないでほしいという趣旨でございます。

**○渡久地修委員** 前に、県道104号線で実弾砲撃演習をしていましたよね。その関係で、そこを迂回するために、提供施設内に住民が使用していい迂回路があると聞いたのですが、それは把握していますか。

○伊田幸司基地対策課副参事 申しわけありませんが、私どもは把握しておりません。

○渡久地修委員 それから、近いところにごみ処理施設がありますよね。

○伊田幸司基地対策課副参事 L Z ファルコンの近くに金武町のごみ処理場があることは承知しております。

○渡久地修委員 そこでつり下げ訓練を行っていて、そこに行く道路などで民間の車に直撃したりすると、それこそ大変なことです。ですから、つり下げ訓練は絶対にさせてはならないということと、けさの新聞によると、金武町と宜野座村がL Z ファルコンの閉鎖・撤去を要求していますが、それは知っていますか。

○池田竹州基地防災統括監 金武町と宜野座村の要請書については、写しをいただいで確認しております。

○渡久地修委員 ですから、つり下げ訓練は直ちに中止し、当然、民間地域、住宅上空で行わないと。そして、L Z ファルコンはずっと大問題になっているので、そこは金武町、宜野座村の要求でもありますし、保守・革新、与党・野党関係なく、みんなで撤去を要求すべきだと思いますが、県もそういう立場で動く必要があるのではないですか。

○池田竹州基地防災統括監 L Z ファルコンにおけるつり下げ訓練は行わないようにという申し入れはしております。昨日、金武町及び宜野座村から、今回初めてヘリパッドの閉鎖が要請されたと聞いております。金武町及び宜野座村とも意見交換をしながら、今後、対応を検討していきたいと思っております。

○渡久地修委員 宜野座村城原区にあるL Z ファルコンについて、金武町と宜野座村がこういう要求をしているので、現場の実態を米軍基地関係特別委員会で調査をする必要があると思います。委員長、後でお取り計らいをお願いします。

○仲宗根悟委員長 ほかに質疑はありませんか。

崎山嗣幸委員。

○崎山嗣幸委員 防衛省はつり下げ訓練の中止は要求しないということを行っているようなので、私はつり下げ訓練を容認しているように思いますが、防衛省の立場として、民間地上空を飛んで事故を起こすことも含めて訓練全てを認めているのですか。

○池田竹州基地防災統括監 泉さんのお宅を含めて、集落地域を飛ばないように航空標識灯が2カ所設置されていると聞いております。そこを回避すれば住宅地上空を飛ばずに訓練場への進入ができるということで、沖縄防衛局も米側にそのように申し入れていると伺っております。

○崎山嗣幸委員 防衛省はつり下げ訓練は認めるが、今、言うように特定の民間地上空を飛ぶなということは要請をしていると受けとめていいのですか。

○池田竹州基地防災統括監 昨年12月に沖縄防衛局からも住宅地上空を飛ばないように申し入れは行っていると聞いております。

○崎山嗣幸委員 米軍からの返事はどうだったのですか。そのとおりにするという確約はとったのですか。

○池田竹州基地防災統括監 米軍からどのような返答があったかは把握していないところです。

○崎山嗣幸委員 いずれにしても、国が米軍に言わないと解決しないでしょう。金武町、宜野座村も求めているのに、弱腰でつり下げ訓練そのものが一第一、落下させること自体が事故でしょう。どこに落ちたかもわからないで平然としているというのに、申し入れしないということはとんでもありません。原因も不明、どこに落ちたかもわからないと。そういった状況では訓練を中止することは当然ではないかと思いますが、原因究明がされるまで中止せよということを含めて、皆さんは防衛省に強く当たりましたか。

○池田竹州基地防災統括監 L Zファルコンでの訓練再開については、2月20日に沖縄防衛局から県につり下げ訓練を再開する予定があるという連絡、そして、宜野座村及び城原区に状況について説明をするという話がありました。そ

の際にも、LZファルコンでつり下げ訓練は行うべきではないとお伝えしたところでは。

○**崎山嗣幸委員** 米軍はタイヤと言っていますが、つり下げるのはタイヤだけなのか、ジープやトラック、戦車もなのか、その種類は確認していますか。

○**伊田幸司基地対策課副参事** 私どもは把握しておりません。

○**崎山嗣幸委員** 確認できませんか。全てのものをつり下げていいと。しかも民間地に飛んでくるわけですよね。ジープなのか、戦車なのか、何が落ちてくるかもわからない状態では大変でしょう。せめて、何をつり下げて訓練をするかを含めて、県は沖縄防衛局に対して実態把握に努めることはしませんか。

○**伊田幸司基地対策課副参事** 今後、実態把握に努めてまいりたいと考えております。

○**仲宗根悟委員長** ほかに質疑はありませんか。  
嘉陽宗儀委員。

○**嘉陽宗儀委員** 今、つり下げ訓練と言いましたが、あれは軍事訓練ですよ。

○**池田竹州基地防災統括監** 軍事訓練といいますか、米軍の訓練だというように思っております。

○**嘉陽宗儀委員** 沖縄の空も海も陸も、日本国とアメリカ合衆国との間の安全保障条約—安保条約や、日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約第6条に基づく施設及び区域並びに日本国における合衆国軍隊の地位に関する協定—地位協定によって、どういう訓練をするとか、提供のありようも全て決められていますよね。つり下げ訓練はどれに該当していますか。どこでも使っていないわけではないでしょう。

○**伊田幸司基地対策課副参事** 後ほど、沖縄防衛局に確認したいと思いますが、我々が把握していることとしましては、用途として高度2000フィートまでの空域は有視界飛行による航空機の運用のために使用されるというのが、キャンプ・ハンセンの使用条件に記載されております。

○嘉陽宗儀委員 復帰のときの5・15メモには厳しい使用条件が書かれていますが、ごらんになっていますか。

○池田竹州基地防災統括監 全部は覚えていないのですが、拝見させていただいたことはあります。

○嘉陽宗儀委員 ペらっと見ただけはだめです。パラシュート降下訓練やつり下げ訓練を含めて、米軍が守るべき点については制約をきちんとしていると思いますので、沖縄防衛局や米軍に物を言う場合でも、勝手に使ってはいけないということが言えるように県としては対応したほうがいいのではないかと思います。

それから、タイヤのつり下げができなくて落下したわけですが、どのような車のタイヤですか。

○伊田幸司基地対策課副参事 私どもが沖縄防衛局から確認しているのは、7トントラックのタイヤの一つが発見されたということです。

○嘉陽宗儀委員 7トントラックのタイヤのサイズと重さはわかりますか。

○伊田幸司基地対策課副参事 私どもも調べておりますが、現在は把握しておりません。

○嘉陽宗儀委員 把握していないというのであれば、これ以上言いようがないのですが、県民が最大の関心を持っている問題については、どういうことを聞かれても即座に答えて、沖縄県の基地対策課は沖縄県民を心配してきちんと調べているなというところを見せないと……。タイヤ1個の重さだけでも調べてこなかったのですか。

○池田竹州基地防災統括監 国内のタイヤメーカーへの問い合わせで必ずしも同一かはわからないのですが、大体、同規模のトラックに使用されているタイヤの重量だと、およそ60キログラム前後ぐらいだと聞いております。

○嘉陽宗儀委員 民間の工事用車両の7トントラックのものと軍事用のものでは、タイヤの肉厚も全然違うし、サイズも違います。今後、皆さん方がこれを

なくすためには、これがいかに危険なものであるかという危険の中身について、県民にわかるように知らせたほうがいいと思います。重量からすると、幾らのスピードで落ちてくるのですか。

○伊田幸司基地対策課副参事　すぐにお答えすることは難しいです。

○嘉陽宗儀委員　落下速度というのは重力加速度がついて、普通のタイヤの重さではなく何倍にもなるのです。エレベーターに乗って体重をはかるときに、上るときとおおりるときでは体重が違うでしょう。ですから、落ちてくるスピードは物すごいのです。ただ普通の重さだけではありません。どこに落ちるかわからない状況の中で行えば、文字通り殺人訓練です。タイヤが落ちたらひとたまりもありません。そのようなタイヤの重さでどれだけの危害が加えられるのかについて、皆さん方は専門としてきちんと説明したほうがいいです。これをしないとアメリカ側は明らかにしません。ずっと以前に米軍の訓練場でダンプカーの被弾事件がありました。どこで訓練したものかわからないというので、私たちは、初速度が幾らで重さは幾らだと物理で計算して、ここで訓練したものが飛んできたと言って犯人を逮捕しました。これもそういう類いです。大変なことになるということについては、検証できるようにしてください。いろいろ聞きたいことはありますが、全て答えられそうにないのでこれぐらいにしておきます。

○仲宗根悟委員長　ほかに質疑はありませんか。

宮城一郎委員。

○宮城一郎委員　LZファルコンと一番近い民家は約350メートルぐらいの距離があるというお話ですが、今回、落下したと思われる現場はLZファルコンよりも民間地寄りの地域ですか。

○池田竹州基地防災統括監　具体的な落下場所も含めて照会して、まだ沖縄防衛局から回答が来ていない状況です。

○宮城一郎委員　LZファルコンで離発着する航空機やヘリコプターに対して、沖縄防衛局を通じていろいろな要請、申し入れ等をなさっているようですが、県がLZファルコンに関して要請したもので聞き届けていただいたもの、あるいは聞き届けてもらえなかったものがどれぐらいあるのか、典型的な例が

あれば教えてください。

○伊田幸司基地対策課副参事 L Zファルコンにつきましては、非常に住宅地に近いということで、昨年12月にオスプレイが物をつり下げた状態で住宅地上空を飛行したときに私どもは抗議しております。その後、しばらくはつり下げ飛行が一時中断されたという事例がございます。ただ、今回、また再開したということでございますが、少なくとも一時的には中断した状態が続いたということでございます。

○宮城一郎委員 しかし、つり下げ訓練は再開されたということは、結果、現時点では聞き届けていただけていないという解釈でよろしいでしょうか。

○伊田幸司基地対策課副参事 再開したということで、今回は聞き届けていただけなかったと考えております。

○宮城一郎委員 L Zファルコンの使用を控えるような要請もされましたか。

○伊田幸司基地対策課副参事 L Zファルコンの使用そのものを控えるという要請は特にしていませんが、私どもは沖縄防衛局に対して、例えば、宜野座村城原区や松田区からの、集落に近いL Zファルコンなどの着陸帯の使用を控えてほしいという要望等を伝えております。

○宮城一郎委員 地元の要望を県がかわって沖縄防衛局にお伝えしたという解釈でいいですか。

○伊田幸司基地対策課副参事 そうでございます。

○宮城一郎委員 L Zファルコンの使用を控えるようにという要望は、米軍は受けとめてくださっていないという状況でいいですか。

○伊田幸司基地対策課副参事 L Zファルコンの使用は現在でも継続していると理解しております。

○宮城一郎委員 要するに、沖縄県からのL Zファルコンに係る要望についてはほとんどかなっていないということでもいいですか。



○池田竹州基地防災統括監 金武町、宜野座村からも、昨日、要請があったところだと思いますが、私どもを含めて、少なくともつり下げ訓練だけでもやめてほしいということも残念ながら聞き入れていただけていないというのが現状かと思えます。

○宮城一郎委員 過去の事例についての掌握の面もそうですし、沖縄防衛局に対して原因究明や詳細を教えてほしいという要望などもたくさんされていると思います。沖縄防衛局に対してお尋ねして、調べて返答するといったもので、実際に沖縄県にはそれなりの回答は間違いなく来ているのですか。それとも、調べておきますと言うだけで、ほとんど風化してしまっているということはありませんか。

○伊田幸司基地対策課副参事 沖縄防衛局独自で回答できるものは回答いただいています。ただ、米軍の運用にかかわるものはなかなか米軍から沖縄防衛局に回答がもらえないということで、そういったものは私どもが照会しても沖縄防衛局から回答は来ないというのが実態でございます。

○宮城一郎委員 要は、沖縄防衛局を窓口にしても、これまではぬかにくぎというような状況だと受けとめていいですか。

○池田竹州基地防災統括監 訓練の内容など、運用にかかわる部分はなかなか御回答いただけない面がございます。事故でも、例えば、航空機事故などにつきましては、時間はかかりますが、原因等の報告も受けておりまして、物によって少し対応が違う部分がございます。

○宮城一郎委員 これまでいろいろな事件・事故が起こってきて、我々は原因究明がなされるまでは当該訓練はしないでほしいなどと言うのですが、運用上、究明結果を説明できないのであれば、今後も我々は原因を知ることもなく、るる米軍の訓練は再開されたり、強行されたりすることになると思うのです。そういう状況を打破するためにも、一緒に力を合わせて頑張りましょう。

○仲宗根悟委員長 ほかに質疑はありませんか。

(「質疑なし」と呼ぶ者あり)

○仲宗根悟委員長 質疑なしと認めます。

以上で、米海兵隊のつり下げ訓練によるUH1ヘリコプターからのタイヤ落下事故についての質疑を終結いたします。

説明員の皆さん、大変御苦労さまでした。

休憩いたします。

(休憩中に、執行部退席)

○仲宗根悟委員長 再開いたします。

本委員会付議事件に係る米海兵隊のつり下げ訓練によるUH1ヘリコプターからのタイヤ落下事故に関する意見書及び同抗議決議を議員提出議案として提出することについてを議題に追加することについては、休憩中に御協議をお願いいたします。

意見の一致を見たときは、本件を議題に追加し、諮ることいたします。

休憩いたします。

(休憩中に、議題の追加について協議をした結果、追加することで意見の一致を見た。)

○仲宗根悟委員長 再開いたします。

米海兵隊のつり下げ訓練によるUH1ヘリコプターからのタイヤ落下事故に関する意見書及び同抗議決議を議員提出議案として提出することについては、休憩中に御協議いたしましたとおり、議題に追加し、直ちに審査を行いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○仲宗根悟委員長 御異議なしと認めます。

よって、さよう決定いたしました。

米海兵隊のつり下げ訓練によるUH1ヘリコプターからのタイヤ落下事故に関する意見書及び同抗議決議を議員提出議案として提出することについてを議題といたします。

休憩いたします。

(休憩中に、意見書及び同抗議決議の提出について協議をした結果、意見書を提出すること、提案者は本委員会の全委員とし、本委員会に所属しない無所属の議員にも呼びかけること、提案理由説明者は委員長とすること、要請方法としては、県外は文書送付し、本島内は直接要請すること、議員派遣について議長に申し入れること等について意見の一致を見た。)

○仲宗根悟委員長 再開いたします。

議員提出議案としての米海兵隊のつり下げ訓練によるUH1ヘリコプターからのタイヤ落下事故に関する意見書及び同抗議決議の提出については、休憩中に御協議いたしましたとおりに決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○仲宗根悟委員長 御異議なしと認めます。

よって、さよう決定いたしました。

以上で、議題は全て終了いたしました。

委員の皆さん、大変御苦勞さまでした。

本日の委員会は、これをもって散会いたします。

沖縄県議会委員会条例第27条第1項の規定によりここに署名する。

委員 長 仲宗根 悟